

石川県白山自然保護センター普及誌

はくさん

第36巻 第1号



谷峠と云うない地蔵

谷峠は、石川県白山市大道谷と福井県勝山市谷の県境の標高約 900m に位置しますが、国道 157 号線の谷トンネルができてからは人の記憶から消えようとしています。しかし、平泉寺白山神社が衰亡した 16 世紀から昭和初期までの数百年間、この峠の往来は盛んだったといわれています。現在、谷トンネルのそばにある石仏は、かつては谷峠にあり、「云うない地蔵」と呼ばれていました。この地蔵の前で罪を犯した旅人が「人に云うない（人に言わないで）」と地蔵に頼んだことに由来していると伝わっています。峠には街道跡を示す切通しがあり、樹齢数百年と思われる大杉もあり、古い街道の面影が偲べれます。

(林 哲)

環白山保護利用管理協会の 成り立ちと今後の取り組み

乾 靖 (環白山保護利用管理協会)



国立公園を取巻く山麓地域

白山国立公園は、富山県、石川県、福井県、岐阜県の4県にまたがり、およそ東西20km、南北40kmにわたって広がっています。昭和37年11月に国立公園として指定されてから今年で46年目を迎えます。加えて全国29か所の国立公園の中でも、原生自然が残る重要な場所「特別保護地区」は全国5番目の広さを誇り、志賀高原、大台ヶ原、屋久島と共に日本に4か所しかない「生物圏保存地域」としてユネスコに登録されていますが、この事はあまり知られていないようです。



お花松原（中宮道）

この白山国立公園を取巻く山麓地域は、古くから山や谷を越えてお互いに交流をしてきた歴史があります。例えば白山市白峰の三ツ谷からは杉峠や願教寺山を越えて郡上市石徹白との交流が盛んだったそうです。白峰のある旧家の建材には、石徹白産である事を記す墨書きが見られます。トラックや大型機械のない時代に、このような材木をどうやってここまで運んだのだろうと首を傾げてしまいます。また、この道を使ってお互いにお嫁さんが行き来したりして、共通の食文化も今に伝えられています。このような例は他の地域でも多く見られます。



杉原家 石川県指定有形文化財

江戸時代終わり頃、永平寺宮大工によって建てられた石川県下で最大級の民家（石川県立白山ろく民俗資料館）。



報恩講料理

浄土真宗を説いた親鸞聖人の報のために11月28日前後に行われる法会が報恩講で、その時に出される料理。

一方、各地域は、白山信仰の拠点としてそれぞれ登山道が拓かれたため、白山は全国に例を見ないほど山頂への登山道を多く有する山となっています。山頂に続くほとんどの尾根には登山道があったと言っても過言では無いくらいで、現在でもその多くが良好な状態で維持管理されています。このように、山麓地域を繋ぐ道、山頂への登拝をする道が縦横無尽に拓かれて、かつては多くの人々

が白山を舞台として生活をしていたのです。

さて、現代では自動車文明の発展により、生活スタイルも変化し、地域間の距離はだんだん遠ざかって来てしまいました。国立公園が制定されてから、国立公園の管理は行政主導となり、山麓の生活は、だんだんと白山との関わりが薄くなってきました。21世紀は、環境と教育の時代と言われ、物の豊かさを求めた時代から、心の豊かさを求める時代へ変わろうとしています。水資源の保全、地球温暖化防止、ふるさと再生、環境教育の推進など課題は山積しています。そのような今こそ、先人達が長年守り育ててきた白山と、その周辺地域の自然と文化を守り、伝えるため、明るく豊かな未来を創造する一歩を踏み出す時期が来たのではないのでしょうか。

本協会の取り組み

環境保全にも地域振興にも「ソフトとハード、土の人（地元の人）と風の人（稀人：外部の人）、産学官民の調和と協働という要素」が不可欠です。私達の「環白山保護利用管理協会（会長：深田森太郎）」は、白山国立公園と周辺地域の4県6市1村の人々が、地域や立場を越えて連携し、協働する新しい組織体で、平成19年1月28日に設立されました。国や県、市村だけではなく、大学の研究室や民間の会社などの団体が組織に加わっています。

その役目は、地元の主体的取り組みを支援したり、他の地域や団体との交流や情報交換の橋渡し役として、あるいは、お互いに共通した新たな仕組みやローカルルールづくり、調査研究などに取り組み、自然、景観、文化を保全するとともに、持続可能な地域振興を実現し、美しい白山と元気な白山麓地域を守り育て、後世に受け継いでいこうとするものです。そのためには、山麓地域に限らず、白山に思いを寄せる人々の思いを結集させ、具体的な行動に移し実践していかなければいけません。

設立直後の平成19年度はエコツーリズムや登山道整備、環境保全に関する事業を行って来ました。その中で、一つの例を挙げると、外来植物対策事業への協力が大きな成果を挙げました。白山自然保護センターのこれまでの調査によると、白山ではオオバコの侵入が目立っていますが、この侵入経路は、登山者が種子を登山靴に付けて侵入することが大きな要因であると考えられていました。そこで、今回、当協会が協力した事業では、登山口や各拠点に、泥落とし用の足マットを設置し、登山者の靴底に付いた泥を回収し、同センターと協働する大学機関が、その泥の中に含まれる種子を分析するというもので



別当出合に設置された足マットの上を歩く登山者
(写真提供：環境省白山自然保護官事務所)



市ノ瀬のバス乗り場に設置された足マット
(写真提供：環境省白山自然保護官事務所)



サブレンジャーによる泥回収

した。この過程において、当協会ではまず、足マットを提供してくれる民間会社と交渉したり、夏期に公園内で美化清掃活動しているサブレンジャー（当協会で募集、活動を支援）が、日々の足マットの泥回収作業や登山者への呼びかけなどを行うことでこの調査への協力をしました。

この結果、やはり登山者の靴底から回収した泥の中に、多くのオオバコをはじめとする外来植物の種子が確認され、侵入経路の立証ができました。また、足マットは侵入を防ぐ大きな役割を果たす事も確認出来ました。この事は、正に当協会の目指す産学官民との協働という事例と言えるでしょう。



市ノ瀬の駐車場に生えているオオバコ

今後の展開

登山者の靴底に付いて回収されたオオバコの種子の大部分は、市ノ瀬の駐車場に生えているオオバコに大きな原因があると考えられます。そこで、今年度はボランティアを公募して、除去作業を展開したいと考えています。この場所なら、一般市民でも容易に来る事が出来て、より多くの方々に白山の保全に取り組んで頂けると考えるからです。

勝山市の小原では、学識経験者や行政担当者の協力で、ミチノクフクジュソウの保全活動に乗り出し、保全活動そのものをエコツーリズムと捉らえて取り組んでいます。この他にこの地域では19年9月から登山者に環境保護協力金を求めて、登山道やトイレの維持管理費、外来植物対策に充てています。



ミチノクフクジュソウ



ミチノクフクジュソウの保全方法研修会

このように、今まで国立公園の保全は、行政に任せ切りだったのですが、それを多くの方々の参加によって実践して行く事によって、持続可能な公園管理を実現していきたいと考えています。その結果、今まで以上に山麓地域に人の交流が生まれ、新たな地域の取り組みが生まれ益々元気な白山麓地域と、美しい白山の保全の環が広がっていく事を願っています。

環白山保護利用管理協会

〒920-2501 石川県白山市白峰ツ 57-乙 白山国立公園センター内

TEL./FAX. : 076-259-2811

E-mail : info@kan-hakusan.jp

URL : <http://association.kan-hakusan.jp/>



山の木の実のなり具合とクマの出没予測

平成 19 年のブナ・ミズナラ・コナラの結実状況

野上 達也 (白山自然保護センター)
中村こすも (石川県自然解説員研究会)

平成 16 年、石川県ではツキノワグマ (以下クマ) が大量に出没し、182 頭が捕獲されました (はくさん第 33 巻第 1 号参照)。大量出没の要因の一つとして、ブナなどの実の不足が挙げられています。ブナのほかミズナラやコナラなどの実 (いわゆるドングリ) は、クマが秋に冬ごもりに備えて食べる重要な餌であるといわれています。しかし、これら実の結実量には大きな年変動があり、凶作年には人里に出没し、有害鳥獣として捕獲されるクマの数が増加することが知られています。そこで、石川県では平成 17 年からクマの出没予測を行うためブナ、ミズナラ、コナラの実の豊凶について花や実が未熟な時期に豊凶作の予測調査を行い、その結果から注意情報や警報を出すことになりました (ホームページは「ツキノワグマによる人身被害防止のために」(<http://www.pref.ishikawa.jp/sizen/kuma/index.htm>))。

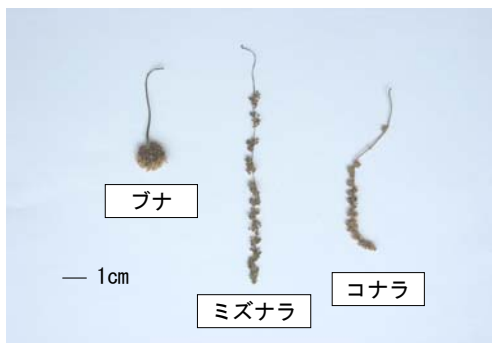


写真 1 ブナ・ミズナラ・コナラの雄花

これまで、ブナなどの結実調査は石川県林業試験場や白山自然保護センターが実施してきましたが、平成 19 年からは石川県自然解説員研究会に調査をお願いして実施しています。本記事では、その調査結果を紹介したいと思います。石川県自然解説員研究会は、白山を訪れる多くの登山者により深く白山を知ってもらうため、自然解説を行うボランティア団体として昭和 58 年に設立されました。夏山シーズン中は、白山の室堂と南竜ヶ馬場で自然解説活動を行っているほか、現在では白山以外にも県内の各地で自然解説活動を行っています。



クマが出没する前に予測する

調査は、クマが生息している加賀地方の山地で行いました。石川県加賀地方におけるコナラ、ミズナラ、ブナの分布する標高は、それぞれ標高 60~400m、標高 200~900m、標高 200m~1,700m です。これらの範囲でブナ、ミズナラ、コナラそれぞれの樹種毎に、ほぼ均等に広がるよ



写真 2 雄花の落下量調査の様子

う調査地をそれぞれ 20 か所程度選定しました。

クマの出没を予測するためには、できるだけ早いうちに豊作か凶作かの徴候を知る必要があります。そこで調査は 5~6 月と 8 月下旬の 2 回、秋の実のなり方と関係することが知られている雄花の落下量と着果度についての調査を行いました。ブナ、ミズナラ、コナラでは花粉を出し終えた雄花は落下します。その地面に落ちた雄花を数えることで秋の実なりを予測するのです。雄花と雌花の間には、雄花が多ければ、雌花も多く付けるとい

う関係があり、雌花が多ければ実の数も多く着けることとなります。調査方法は、調査地の地面に50×50cmの枠を5つ設け、その中に落ちていた数を数えて平均して豊凶を判断しました。コナラは5月中旬に、ブナとミズナラは6月中旬から下旬にかけて調査を行い、8月上旬には調査結果をまとめました。また、着果度調査は実際に実になり始めの実がまだ青く小さい時期に双眼鏡や肉眼などにより、どの程度木についているかを観察するもので、8月に実施し、本格的にクマが出没するようになる9月下旬までに結果をまとめました。

予測結果

雄花の落花量の調査結果から平成19年の石川県のブナは、全体では凶作と推定されました。また、地域ごとの違いはなく、調査地19か所のうち9か所が凶作、10か所が大凶作と推定されました。ミズナラは、調査地点ごとにばらつきがあり、大凶作の場所から大豊作の場所まで様々で、場所によって大きく異なり、地域によるまとまりは見られませんでした。また、コナラはほとんどの調査地で並作（調査地18か所中14か所（77.8%））でした。

表1 雄花の落下数による樹種ごとの豊凶判断結果（平成19年）

樹種	大豊作	豊作	並作	凶作	大凶作	計
ブナ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (47.4%)	10 (52.6%)	19か所
ミズナラ	3 (18.8%)	5 (31.3%)	0 (0.0%)	6 (37.5%)	2 (12.5%)	16か所
コナラ	0 (0.0%)	3 (16.7%)	14 (77.8%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	18か所

表2 着果度による樹種ごとの豊凶判断結果（平成19年）

樹種	大豊作	豊作	並作	凶作	大凶作	計
ブナ	0 (0.0%)	2 (10.5%)	11 (57.9%)	4 (21.1%)	2 (10.5%)	19か所
ミズナラ	0 (0.0%)	5 (26.3%)	4 (21.1%)	9 (47.4%)	1 (5.3%)	19か所
コナラ	0 (0.0%)	2 (11.8%)	5 (29.4%)	10 (58.8%)	0 (0.0%)	17か所

一方、着果度調査からは、平成19年の石川県のブナは、全体では並作と推定され、調査地17か所中10か所（58.8%）が並作と推定されました。しかし、金沢市の順尾山や加賀市の大土の裏（斧入らずの森までのブナ林）など一部の地域では、調査木全てが実をつけていない大凶作でした。ミズナラは、雄花の落下量調査の結果と同様に場所によって大凶作～豊作まで大きく異なっていました。また、コナラは調査地16か所中10か所（62.5%）は凶作と判断されました。

このように雄花の落下量調査と着果度調査の結果を比較してみると、ブナでは雄花の落下量調査が凶作であったものが、着果度調査では並作となり、作柄が良くなっていました。一方、ミズナラとコナラでは雄花の落下量調査と着果度調査の結果に大きな違いはありませんでした。ブナで調査結果が異なっていたのは、雄花の落下量調査の実施日が雄花の落下から時間がたちすぎていて、調査日には分解されたり風雨などで、移動消失したため過少評価となった可能性が考えられました。

ブナの実のなり方は、これまでも広域的に同調する（豊作年はどの地域のどの木も実をつけるが、不作年はどの地域でもほとんどの木で実がつけない）といわれていますが、今回の調査でも比較的 đồng調しているようでした。ミズナラについてもブナ同様にその結実状況は同調することが多いとされていますが、今回の調査結果は、結実状況はばらつきが大きく、場所によって異なっていました。今後もミズナラについては、地域的なばらつきについて調査を継続すると共に、もう少し細かく地域ごとの豊凶判断とクマの出没との関連を検討することが必要かもしれません。また、平成9年に福井県境の加賀市刈安山のミズナラで初めて確認され、被害を広げているカシノナガキクイムシによるミズナラの大量枯死が調査地域でも多数確認されています。これらのミズナラの大量枯死のクマ大量出没への影響については不明ですが、餌資源として大量の種子をつける大きな木を中心に被害が出ており、影響を与えている可能性があります。コナラについては、結実は個体間、地域間で

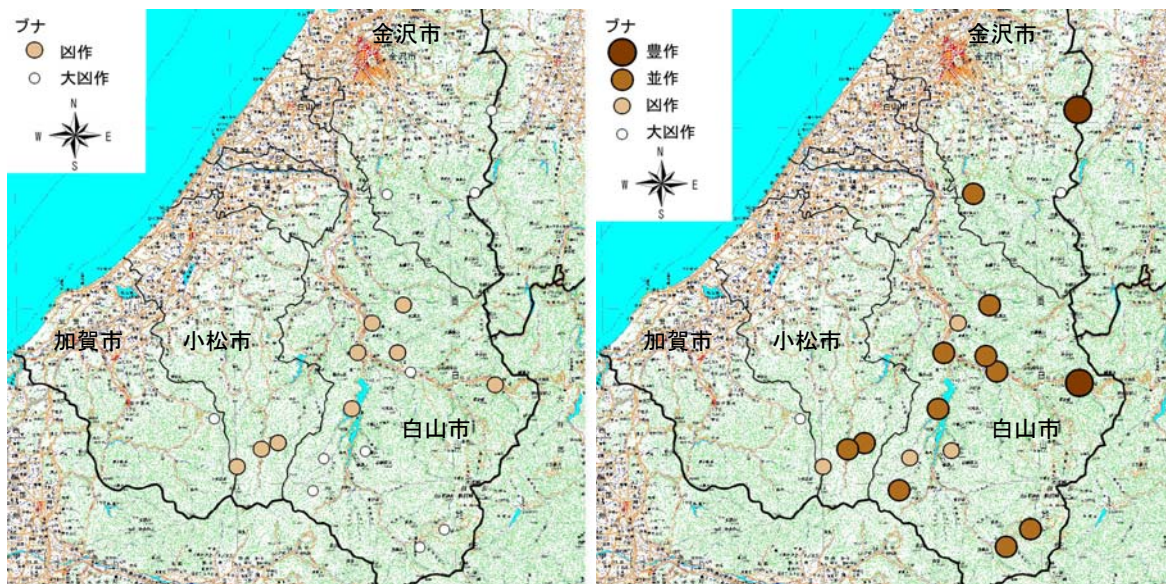


図1 ブナの雄花の落下量調査の調査結果（左）と着果度調査の結果（右）

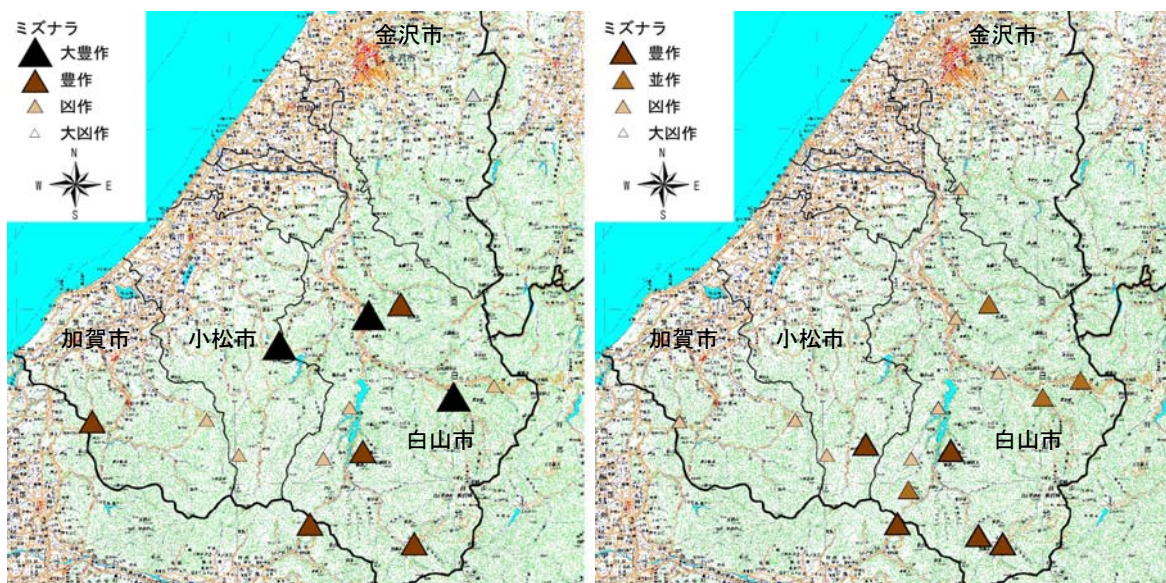


図2 ミズナラの雄花の落下量調査の調査結果（左）と着果度調査の結果（右）

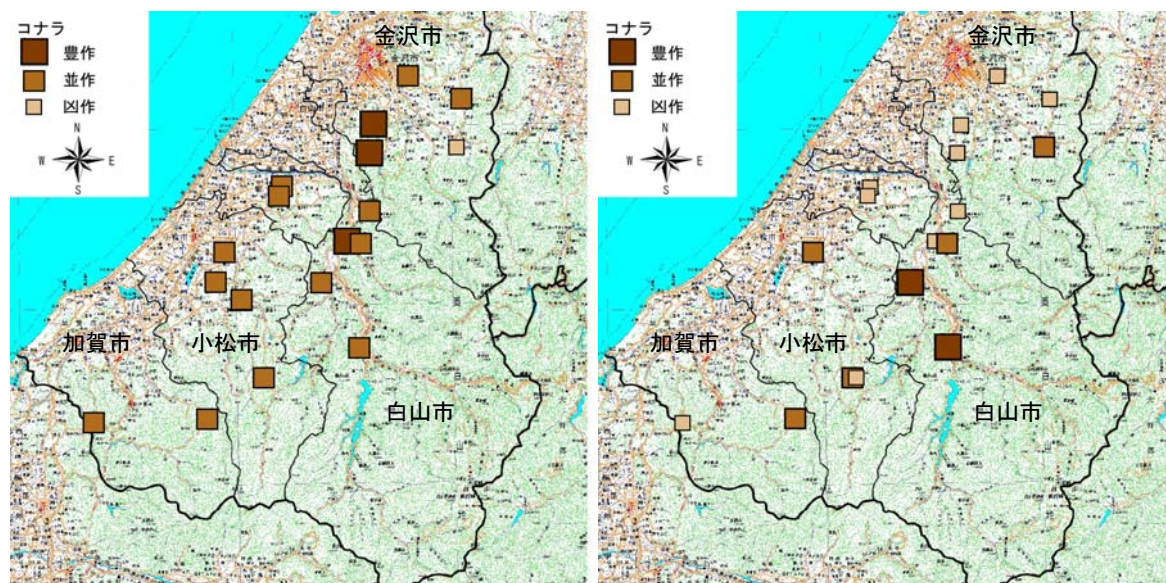


図3 コナラの雄花の落下量調査の調査結果（左）と着果度調査の結果（右）

（図1～3には国土地理院刊行の「数値地図200000（地図画像）」の「金沢」データの一部を使用した）

異なることが知られていますが、今回の調査では、コナラはミズナラよりも比較的同調した傾向を示す結果でした。これが地域性によるものなのか、年によって変動があるものなのかはつきりさせるために、今後も継続した調査を行う必要があります。



クマ出没数、捕獲数

雄花の落下量調査の結果から、石川県自然保護課では、平成19年8月22日、ツキノワグマの出没注意情報を発令し、注意を呼びかけました。その後、平成19年の9月末までのクマの出没状況と着果度調査の結果を併せて検討した結果、クマの出没は、平成16年及び平成18年に発生したような大量出没が生じる可能性は少ないと推測しました。

平成19年の出没状況件数は110件で、平成17年の57件、平成15年の66件に比べれば多いものの、大量出没した平成16年の1,006件、平成18年の333件に比べると、それぞれ10.9%、33.0%となっていました。

また、捕獲数も平成19年は12頭で、大量出没した平成16年の182頭、平成18年の89頭に比べると、それぞれ6.6%、13.5%となっており、平成15年の37頭に比べても少ない状況でした（平成17年は5頭）。よって平成19年の石川県におけるクマの出没状況は、雄

花の落下数調査及び着果度調査の結果から予測されたとおり、出没や捕獲が少ない状況でした。

平成20年度もすでに石川県内でクマの出没の報告がされていますが、雄花の落下量調査のほうも、すでに始まっており、7月にはその調査の結果を発表したいと考えています。調査結果が人身事故を防ぎ、多くの方の役に立てばよいと願っています。

表3 石川県加賀地方のブナ科樹木3種の豊凶予測状況(平成19年)

樹種	調査地	標高 (m)	雄花落下数調査	着果度調査
			豊凶判断	豊凶判断
ブナ	白山市白峰 市ノ瀬(別当出合付近)	1,250	大凶作	並作
	白山市白峰 市ノ瀬 岩屋俣	1,200	大凶作	並作
	白山市白峰 大嵐山	970	大凶作	凶作
	白山市中宮 スーパー林道内 親谷の湯付近	740	凶作	豊作
	白山市白峰 白木峠林道	900	大凶作	並作
	白山市桑島 赤谷	640	大凶作	凶作
	白山市中宮 中宮スキー場林道山頂近く	950	凶作	並作
	白山市尾添 大林	550	大凶作	並作
	白山市鴛ヶ谷	650	凶作	並作
	白山市仏師ヶ野町	330	凶作	並作
	白山市瀬波	350	凶作	凶作
	白山市河内町内尾 セイモアスキー場頂上	1,040	凶作	並作
	金沢市 奥医王山・夕霧峠	—	大凶作	豊作
	金沢市菊水町	400	大凶作	並作
	金沢市 順尾山	830	大凶作	大凶作
	加賀市山中温泉大土町 大土の裏	450	大凶作	大凶作
	小松市 花立越え	860	凶作	並作
	小松市岩淵町 新保神社裏	590	凶作	並作
小松市 鈴ヶ岳	1,150	凶作	凶作	
			凶作	並作
ミズナラ	白山市白峰 市ノ瀬 岩屋俣	1,000	豊作	豊作
	白山市白峰 大嵐山	—	豊作	豊作
	白山市白峰 白木峠林道	900	凶作	並作
	白山市白峰 谷峠	770	豊作	豊作
	白山市鴛ヶ谷	660	凶作	凶作
	白山市中宮 スーパー林道内 親谷の湯付近	740	凶作	並作
	白山市尾添(岩間温泉) 新岩間温泉	780	大豊作	並作
	白山市尾添 大林	550	大凶作	凶作
	白山市河内町内尾 セイモアスキー場キャンプ場	1,000	豊作	並作
	金沢市 医王山 西尾平	580	凶作	凶作
	金沢市 順尾山	830	大凶作	大凶作
	加賀市山中温泉 県民の森	540	凶作	凶作
	加賀市山中温泉 刈安山	500	豊作	凶作
白山市佐良(瀬波)	320	大豊作	凶作	
小松市 鈴ヶ岳	880	凶作	凶作	
			並作	並作
コナラ	白山市瀬戸 尾口小学校裏	260	並作	豊作
	白山市河内町福岡	250	豊作	凶作
	金沢市 犀鶴林道沿い	630	並作	凶作
	白山市河内町口直海	300	並作	並作
	白山市出合町	220	並作	豊作
	金沢市住吉町	375	豊作	凶作
	金沢市平栗	220	豊作	凶作
	金沢市 医王山	420	並作	凶作
	金沢市角間町	75	並作	凶作
	金沢市湯涌町	270	凶作	並作
	能美市来丸町 辰口庁舎裏	50	並作	凶作
	能美市徳山町 辰口丘陵公園	60	並作	凶作
	小松市吉竹町 いこいの森	40	並作	並作
	小松市 西俣県有林	320	並作	並作
	加賀市山中温泉 県民の森	540	並作	並作
	加賀市山中温泉 刈安山山頂部	540	並作	凶作
				並作

注 標高で「—」で表示されているところは、雄花の落下数調査と着果度調査で調査地が異なる。

白山地域の野鳥観察 1

白山の声優たち

関 幸良 (白山自然保護センター)

バードウォッチングと言えば双眼鏡と重い大砲の様な撮影機材を担いで動きまわる姿を想像します。しかし、少数ですが、色合いや鳴き声、しぐさ等を俳句や短歌に詠まれる方、画題にする方などにも会うこともあります。後者も自然の理解者であり、立派なバードウォッチャーだと思います。又観察は目で見るものだと思いがちですが、鳥には他の動物が持っていない「^{さえず}囀り」と言う特技を持っていることは誰でも知っています。この囀りを耳で観察するのも良いものです。鳴き方には縄張り、求愛、警戒、威嚇、それに上手、下手がありますが、ここでは白山地域で観察できる鳥の中から「名前や声は聞いた事があるなあ」と思われる種を中心に思いつくまま執筆します。

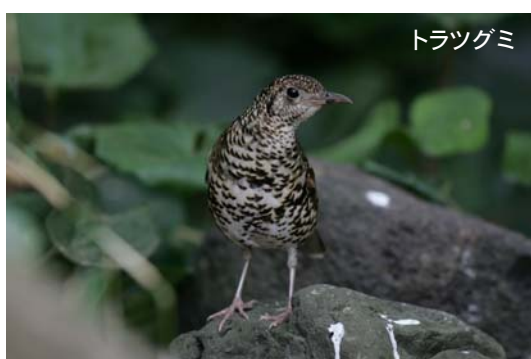
まず思いつくのが「ホーホケキョ」と鳴くウグイスでしょう。しかし、声はしますが、なかなか姿を表しません。夏期、亜高山帯で鳴くコマドリも同様です。次に鳴き声そのまま種名(鳥の名前)となっている鳥にカッコウ、ジュウイチ、ヒヨドリ等がいます。鳴き声が何かの声や音に似ているところから名付けられた鳥には、「ヒーカラカラ」と馬(駒)のいななきに似ていることから名付けられたコマドリ、竹筒をたたいた時の音「ポポ、ポポ」に似ているのでツツドリ等。変わった付け方では^{ききな}聞倣し(鳴き声を人の言葉に置きかえる事)でつけたものに「チーチョホイ、ホイホイ」を「月日星ホイ、ホイホイ」と聞倣し、月日星の三つの光でサンコウチョウ。「ヒーリーリ、ヒーリーリ」と飛びながら鳴くサンショウクイは、「山椒は小粒でピリリと辛い」と言う格言から鳴き声と味



ウグイス



コマドリ



トラツグミ



オオルリ

覚の表現が似ているので無理やり山椒の実を食べることにした様で、鳥にすれば迷惑な話です。その他、種名と鳴き声一致しない鳥にコノハズクとブッポウソウがいます。「ブッポウソウ」と鳴くのは地味な色合いが目立たないコノハズクで、ブッポウソウは「ゲーッ、ゲゲ」と鳴き、派手な色で目立ちます。両種は夏期に飛来し同じ環境に住むので声と姿を見間違えたもので、後年、鉄砲で撃ち落として証明されたという話は有名です。また、主に夜に「ピーヒョー」と不気味な声で鳴く鳥がトラツグミであることも知っておけば、キャンプの時など安眠できるのではないのでしょうか。最後になりましたが、声がテーマで忘れていけない種はオオルリ、ホオジロ、キビタキです。これらは声も姿も美しく、しかも梢など決まった所で囀りますので春から初夏には容易に観察できます。



最優秀賞：佐藤利宏さん（滋賀県）

ブナオ山観察舎作品 コンテストの結果

白山自然保護センターでは、ブナオ山観察舎が昭和56年の開館以来、四半世紀以上経過したことから、平成20年1月から3月まで、ブナオ山観察舎で感動したこと、体験したこと、観察したことなどを表現した作文、絵、写真などの作品を募集する作品コンテストを開催しました。その結果、大阪府、京都府、滋賀県などの県外や輪島市立町野小学校6年生19名をはじめとした県内外から63点の応募がありました。

応募作品の中から、作文の部、絵画の部、写真の部の3部門毎に、最優秀賞1点、優秀賞1点、入選3点の合計15点を選定しました。

なお、応募作品はブナオ山観察舎や中宮展示館などで展示します。

（写真及び絵画は、紙面ではモノクロですが、当センターのホームページで公開しているPDF版ではカラーでご覧になれます。）



優秀賞：山本正吉さん（かほく市）



入選：
佐藤康夫さん（金沢市）
（上）
山本 豊さん（大阪府）
（左）
佐藤和彦さん（滋賀県）
（右）

写真の部

写真の部の応募は 15 点で、最優秀賞は佐藤利宏さん（滋賀県）。優秀賞は山本正吉さん（かほく市）。入選は佐藤和彦さん（滋賀県）、佐藤康夫さん（金沢市）、山本 豊さん（大阪府）（入選作品の順序は五十音順）が選定されました。



絵画の部

絵画の部の応募は 6 点で、最優秀賞は大村恭子さん（白山市）、優秀賞は窪田幸穂さん（輪島市）。入選作品は池田堯弘さん（輪島市）、岡崎哲也さん（輪島市）、山田珠央さん（野々市町）（入選作品の順序は五十音順）が選定されました。

最優秀賞：大村恭子さん（白山市）
（左）

入選：
山田珠央さん（野々市町）（下）



優秀賞：
窪田幸穂さん（輪島市）
（上）

入選：
岡崎哲也さん（輪島市）
（左）
池田堯弘さん（輪島市）
（右）

作文の部

作文の部の応募は42点で、最優秀賞は藤平はづきさん（輪島市）の「3つの感動!!そして…」。優秀賞は赤塚^{さとこ}聖子さん（大阪府）の「私のブナオ山観察舎」。入選は上口他家子さん（金沢市）の作文、山本千枝香さん（小松市）の短歌、伊藤純子さん（大阪府）の俳句が選定されました。

最優秀賞：輪島市立町野小学校 6年 藤平はづき（輪島市）

「3つの感動!!そして…」

「どこを見ても真っ白!!」

私は、ブナオ山で3つの感動を感じました。まず1つは、その雪の量の事です。私の家のまわりには全く雪がありません。でもブナオ山には、逆に緑がないほど真っ白で感動しました。かんじきを初めてはいて、歩きにくかったけれど、とても貴重な体験が出来たな～と思います。

2つめの感動は、見た事のないような動物を見ることが出来たという事です。動物は、ペットのような動物や動物園で飼育されているような動物しか見たことがなかったので感動的でした。特にカモシカが一番印象的でした。真っ白な雪の中から茶色のカモシカを見つけるのは簡単そうですが難しくかったです。その分、見つけた時の喜びはとても大きくうれしかったです!

そして3つめの感動は、動物が見れたという事から連想出来る、動物達の今後についてです。これから先、10年20年後もブナオ山で動物を見る事が出来るかな～と忘れてしまいます。それは、やっぱり私達人間がこわし続けてきた環境が心配だからです。そして私は今、何をすべきなのかと考えるとゴミを出さない事などが頭にうかびます。ブナオ山のすばらしい自然を未来へ残していくために私も、色々と心がけをしたいと思います。

ブナオ山でたくさんの感動をいただきました。そして、自然・環境についても学ぶ事が出来たので良かったです。

ブナオ山!たくさんのいい思い出をありがとう。

優秀賞：赤塚聖子（大阪府）

「私のブナオ山観察舎」

思えば昭和57年の春、ある旅行雑誌に載っていた小さな小さな記事「日本で最初の野生動物観察舎がオープン…」これを目にしたのがそもそも間違いの始まりでした。旅行と動物の好きな私は、興味津々で5月の連休に大阪から列車とバスを乗り継いでやって来たのですが、白山下から乗ったバスの乗客は私ひとり。山は深く、急なカーブに体は左右に大きく揺れ、置いたリュックがあつちにズー、こっちにズズズ…。このバス、ほんまに大丈夫やろか?と心細くなりました。そしてやっとの思いでたどり着いて私の眼に木造の観察舎と所々雪の残ったブナオ山が…。これが私とブナオ山観察舎との初めての出会いでした。そしてそう簡単に野生動物は見られないだろうと半ば諦めていた私ですが、職員さんがいろいろと指導して下さったおかげでニホンカモシカやサルを見る事が出来たのです。3日間は、あつという間に過ぎてしまいました。ニホンカモシカってもっとスマートな動物だと想像していた私は、始めて見るユーモラスな姿にすっかり惚れ込んでしまい、とうとう病みつきになってしまったのです。

そして今日まで私の長い長い観察舎通いが始まりました。阪神淡路大震災のあった平成7年を除いてもう25年になりますが、毎年来るたびに新しい出会いがあります。ニホンカモシカやイヌワシをはじめいろいろな動物たち。そして昨年、ブナオ山の斜面で見たツキノワグマ（それまでは遠くにいる姿を見かける位でした）、さらに職員さんをはじめ、いつも快く泊めて下さる民宿の家族やいろいろ

ろな人々とも出会いました。そして不思議なことに私は、観察舎に座ってブナオ山を正面に見た時、心からほっとした気持ちになり、肩の力が抜けていくのです。何故か家に帰った時よりも落ち着きました。この安らぎがあったからこそ長年の会社勤めが出来たのではないのでしょうか。仕事上のストレスも毎年観察舎に来る事で解消されていたのだと思います。

私の一年の始まりは、暦の1月1日ではなく「観察者きた日」でした。それは、NHKの朝ドラマ「ちりとてちん」のように「私の心の故郷」なのかもしれません。年々、バスの便が減り、とても心配ですが、体が元気である限りはこれからも通い続けるつもりです。オープンから半世紀を過ぎた観察舎への思いを文章にしてみました。最後に私のブナオ山観察舎とブナオ山の動物達と出会った人々に感謝の気持ちを込めて「ありがとう」そして「これからもよろしく」

入選：上口他家子（金沢市）

生まれて初めて、かんじきを履き深雪の中の春山散策。ビニール風呂敷をお尻に敷いて30mを滑り下り爽快感と満足感にすっぽり包まれた私は何才？あるご縁に恵まれたある日でした。この年の冬はまれに見る豪雪でした。2006年3月中旬でも残雪が多くブナオ山観察舎は、雪の中から顔を出した様に表れ、周辺の山の木々に雪折木がたくさんありました。舎の中には双眼鏡をはじめ諸設備が揃い、自然の中で草を食むカモシカ等が観察出来ました。残念な事はイヌワシにお目にかかれなかった事です。私のような年令でも新鮮でたのしかったです。子供たちは目を輝かせると思いますし程よい運動と珍しい風景と、静寂と、肺の中の大掃除をしてくれる空気のプレゼントもあり、貴重な体験の宝庫でした。

近くに一里野温泉もあり、スキー場からマイカーで5分程とか。観察舎の方々もとても親切でその上見学料は不要。私は機会を作り首都圏に住む一番下の孫を連れて行こうと思っています。私が余りにも自慢するので、羨ましそうに目をきらきらしながら、話を聞いてくれますので。ブナオ山観察舎は野生動物を自然の状態で観察出来る全国的にも珍しい施設とか。この原稿を書くことで知りました。野生動物も冬期で危害にあうこともなく、かんじきの軽さ、滑り降りも雑踏の中でなく安全、静寂に浸れる頭の中はみるみる澄むようで空気がおいしすぎ、但し天候には充分留意が必要です。健康という贈り物まで観察舎は与えてくれました。

入選：山本千枝香（小松市）

短歌

カモシカは 塑像のように ブナの森
雪に^{まる}転びし 我見て微笑む

入選：伊藤純子（大阪府）

俳句

春雪に まみれて六十路の 輝けり



中宮展示館での作品紹介の様子

平成20年8月31日（日）まで最優秀賞、優秀賞、入選作品だけでなく、応募された全作品を展示しています。

（作文の部の作文は、読みやすくするため、改行するなど、文章の一部を変更したところがあります。）

白山の自然を紹介 県庁で初の出張展示

白山の山頂から能登・加賀の海まで多種多様な生物が生息する石川県の豊かな自然について多くの方に知ってもらおうと、白山の調査のための「白山自然保護センター」（昭和48年設置）と海の調査のための「のと海洋ふれあいセンター」（平成6年設置）が5月2日から15日まで石川県庁19階の交流コーナーで、初の共同出張パネル展「白山と能登の海」を開催しました。白山関係では解説パネルのほか、ニホンカモシカやニホンザルのはく製、ニホンザルの全身骨格標本などもあわせて展示しました。



写真の中の動物を探す来場者

解説パネル、はく製、ミニ体験コーナーも

5月3日（土）にはミニ体験コーナーを設置しました。来場者、特に子供たちは普段、なかなか接することの出来ないツキノワグマやニホンカモシカ、ニホンザルなどの動物の骨や毛並みの違いなどに触れ、楽しんでいました。また、ブナオ山観察舎で撮影した写真で風景の中にとけこむカモシカを探す展示では、子供たちだけでなく、大人も必死になって探していました。



カモシカやサルのはく製などが並ぶ展示会場

県民白山講座

白山登山と高山植物の集い

県民白山講座「白山登山と高山植物の集い」は6月14日、白山市倉光の白山市民交流センターで開かれ、登山愛好者ら155名が参加して今年の登山シーズンへ胸を膨らませました。

石川県自然解説員研究会と白山自然保護センターの主催で、鶴来警察署山岳救助隊の別宗信行氏らが「安全登山の心得」、白山自然保護センター主任研究員の上馬康生が「白山のクマとサル」、石川県自然解説員研究会の真栄隆昭氏が「白山の高山植物」と題してそれぞれ講演しました。

会場には白山登山相談コーナーが設けられたほか、ピーク時の交通規制のパンフレットなど登山や自然に関する資料が配布されました。

安全で楽しい登山を



「白山のクマとサル」講演



ブナオ山観察舎のキャラクター・かもちゃん

しぜん もりだくさん

ブナオ山観察舎

19年度
シーズン終了

クマ観察 最多の21日

平成19年度のブナオ山観察舎は19年11月20日から20年5月6日まで開館しました。この間、2,089人が訪れ、ブナオ山の野生動物の観察やかんじきをはいてのミニ観察会を楽しんでいただきました。

ニホンカモシカでは右角がサイの角のように突き出しているので「サイ角」と名づけた母親とその子がよく観察され来館者の人気を集めました。4月中旬からはツキノワグマがほぼ連日、草地に現れ、観察日数は21日に上り、これまでの最多を記録しました。

次の開館は今年11月20日を予定しています。

「サイ角」母子が人気



雪原で寄り添うカモシカ母子。左が「サイ角」、右が子



ブナオ山中腹の草地に現れたクマ

ガイドウォーク始まる



市ノ瀬の自然観察路を案内するボランティア（右端）

白山自然ガイド ボランティア

白山自然ガイドボランティアの平成20年度第1回研修講座は4月12日、白山市木滑の白山自然保護センターで開かれ、野外での事故等に対応するため、白山石川広域消防本部の方による普通救命講習を受講しました。また、自然解説ポイントなどの勉強にも取り組みました。

一方、5月の連休から中宮展示館と市ノ瀬ビジターセンターで今シーズンのガイドウォークが始まり、それぞれ周辺の自然観察路を案内しました。

普通救命講習を受講 第1回研修講座



救命方法の講習

お知らせ

ガイドウォーク

中宮展示館・市ノ瀬ビジターセンターで土日、祝日に実施。白山自然ガイドボランティアや各館職員が周辺の自然をご案内します。時間は午前10時、午後1時から1~2時間。参加無料。参加申込は当日、カウンターへ。団体の場合は事前連絡を。

県民白山講座

白山の高山にすむ動物たち

日時：8月23日(土)13:30~16:30
会場：県立生涯学習センター
定員：100名
内容：白山の高山帯にすんでいるオコジョなどの野生動物について考えよう。

白山まるごと体験教室

化石で探る太古の白山

日程：7月27日(日)9:00~15:00
集合場所：白山自然保護センター(白山市木滑)
定員：30名
内容：化石や地層を観察して太古の白山について考えます。

秋の音、ネイチャーコンサート

日程：9月20日(土)13:30~16:00
集合場所：中宮展示館(白山市中宮)
定員：50名
内容：虫の音、川の音そして野外での演奏。自然の中に浸り、いろいろな音を楽しみます。

白山麓里山・奥山ワーキング

白山中宮道ブナ林観察と草刈り

日程：7月12日(土)9:00~15:00
集合場所：中宮展示館(白山市中宮)
定員：50名
内容：草刈り作業の体験を通して、白山の環境保全について理解を深めます。

申込み・問合せ

県民白山講座は申込み不要です。白山まるごと体験教室と白山麓里山・奥山ワーキングは当センター(076-255-5321)までお申込み下さい。定員に達し次第切ります。

センターの動き (4月1日～6月20日)

- | | | | | | |
|--------|--------------------------|------------|---------|----------------------|-------------|
| 4.6 | 県政出前講座「笠間老人クラブ老健会」 | (白山市) | 5.20 | 自衛消防訓練 | (本庁舎・中宮展示館) |
| 4.11 | 白山自動車利用適正化連絡協議会 | (本庁舎) | 5.24 | 日本雪氷学会北信越支部研究発表会 | (長岡) |
| 4.12 | 白山自然ガイドボランティア研修講座第1回 | (本庁舎) | 5.24～25 | 白山スーパー林道ウォーク | (中宮展示館) |
| | クマ餌資源調査打合せ会 | (野々市) | 5.26 | 石川県白山麓別当谷安全協議会総会 | (白山市) |
| 4.18 | 金城大学短期大学部美術学科 講師 | (白山市) | 5.28 | 白山市学校教育委員会理科部会 講演 | (本庁舎) |
| 4.26 | 市ノ瀬ビジターセンター、中宮展示館開館 | | 6.1 | 外来植物除去作業ボランティア研修会 | (金沢市) |
| 5.2～15 | 特別展示 白山と能登の海 | (石川県庁 19階) | 6.4 | 県政出前講座講演「木滑老人会」 | (本庁舎) |
| 5.6 | ブナオ山観察舎 閉館 | | 6.5 | ニホンザル打合せ会議 | (白山市) |
| 5.9 | 白山火山勉強会 | (金沢) | 6.14 | 県民白山講座「白山登山と高山植物の集い」 | (白山市) |
| 5.10 | あなたもブナを育てましょう 講師 (中宮展示館) | | 6.17 | 金城大学短期大学部美術学科 講師 | (白山市) |
| 5.18 | クマ餌資源調査現地研修会 | (小松) | | | |

編集後記

最近、ショックなニュースが届きました。白山の登山道、別山・市ノ瀬道の通称「こぶブナ」が枯れたというのです。その名のとおり、地際の部分が膨らんでコブのようになっていることから、そう呼んでいました。登山道脇でよく目立つことから、当センターのブナ林観察会ではシンボリックな木で、その胸の高さでの幹周りは5.2mもあり、石川県内では1、2を争うほどの太さだと思われま。昨年、秋から様子がおかしかったので、そろそろ危ないかなと感じていたのですが、本当に残念です。しかし、生物には必ず死が訪れます。ブナの木が枯れた後は、林床は明るくなり、また、ブナをはじめとした新しい木々が成長を始めます。そのようにして白山のブナ林はこれまでも維持され、そしてこれからも維持されていきます。これからの新しい命に注目していきたいと思ひます。

さて、白山自然保護センターでは、白山の自然誌28「白山の鳥たち」を発刊しました。白山の山麓から高山帯で春から夏にかけて見られる野鳥を中心に30種類を紹介しています。ご希望の方は、当センターの各施設で配布しているほか、送料(140円切手)を負担していただければ郵送しますので、当センターまでお申込み下さい。(野上)



勢力旺盛だった頃の「こぶブナ」

目次

表紙 谷峠と云うない地蔵	林 哲 ... 1
環白山保護利用管理協会の成り立ちと今後の取り組み	乾 靖 ... 2
山の木の実はなり具合とクマの出没予測	
平成19年のブナ・ミズナラ・コナラの結実状況	野上 達也・中村こすも ... 5
白山地域の野鳥観察1 白山の声優たち	関 良幸 ... 9
ブナオ山観察舎作品コンテストの結果	10
はくさん 山のまなび舎だより	谷野 一道 ... 14

はくさん 第36巻 第1号 (通巻147号)

発行日 2008年6月20日 (年4回発行)
 編集発行 石川県白山自然保護センター
 〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4
 TEL. 076-255-5321 FAX. 076-255-5323
 URL <http://www.pref.ishikawa.jp/hakusan/>
 E-mail hakusan@pref.ishikawa.lg.jp
 印刷所 前田印刷株式会社